

学
報

スポーツ文化の風を発信する

NITTAIDAI

33

2013.Winter

日体大の新展開

特集■日体大の新展開

2013年4月児童スポーツ教育学部開設 — 1

巻頭 学長エッセイ「児童スポーツ教育学部に期待する」 — 1

日体大初となる新学部誕生—子どもと社会の未来を見据えて — 3

体育学部が新しいステージへ「領域制」スタート — 5

社会貢献の新たな一歩—日体大スポーツキャラバン — 7

応援ありがとう!ロンドンオリンピック報告会 — 11

クラブ情報●2012年度下半期クラブの主な大会成績 — 13

NEWS●2012年度下半期ニュース — 14

INFORMATION●dot.NITTAIDAI — 15

日体大の新展開

自己ベストを尽くす。

競技においても、大学生活においても、それが日体生の本分である。では、それは誰のためなのか。

表彰台に立つ、あるいは教員採用試験を突破した自分をイメージして欲しい。そうすれば、自分が果たすべき責任が自ずと見えてくるはずだ。

私たちにスポーツという武器がある。

人々の健康のため、わが国の復興・社会活性化のため、国際交流のため、私たちができることは限らない。

さらなる社会貢献に向けて、日体大が動き始めている。

スポーツを通じて豊かな未来社会を創るため、一人ひとりの学生の可能性を広げるために、これまでの日体大を脱皮した新しい挑戦だ。

社会に目を向け、自分を活かす道を真剣に模索したとき、それが真の「自己ベストを尽くす」ことになるだろう。



学長 エッセイ



日本体育大学
日本体育大学女子短期大学部

学長 谷釜了正

児童スポーツ教育学部に期待する
未来の日本を切り拓く子どもたちの育成に向けて

戦後の高度経済成長を担ってきた世代は、いま、高齢期を迎え、若い世代に「人生の仕上げ」を委ねつつあります。世代は間断なく着実に交代しているわけですが、これまでのように経済的に豊かな人生が若い世代にも続けて保証されているわけではありません。未来の希望にあふれた豊かな日本の建設は子どもたちの双肩にかかっているといっても過言ではありません。いま、子どもたちに対して先に生まれし世代は何を提供できるのであろうか。

本学はこの課題に取り組み、「ここから先の健康」を提供することを使命としました。何事をなすに当たっても健やかなところからだが基礎となるからです。これは人間社会のなかにあつてつながりを生きていくためには欠いてはならないことです。スポーツの効用はここから先の双方に働きかけ、ここが通った仲間作りができることです。スポーツを行い、観戦し、支援することで健康なからだや豊かなところが形成されます。さらに誕生から成長期にいたる過程において適切な運動(スポーツ)を継続すれば、これが貯金となって高齢期を迎えても元気に生活ができるといわれています。いわゆる「健康寿命」が延びることになります。

～未来の健康社会づくりのために～

2013年4月、 「児童スポーツ教育学部」開設

わが国は本格的な高齢社会を迎えています。長い人生を健康で豊かに暮らしていくために、幼児期・児童期の体づくり、運動習慣を身につけることが欠かせません。こうした社会的要請に応え、日本の体育・スポーツをリードしてきた本学が「児童スポーツ教育学部」を開設します。

開学以来約120年にわたり「体育学部」を軸に展開してきた本学で、初めてとなる学部増設。スポーツを多面的にとらえ、社会にいつそう貢献するために、新しい一歩を力強く踏み出します。

●学部概要

「児童スポーツ教育学」とは、「体育学(スポーツ科学)」と「教育学・保育学」の中でも特に児童期の発達段階に焦点をあてた「児童教育学」とを緊密に連携させた学問領域です。

児童スポーツ教育学科

児童スポーツ教育コース

体育・スポーツや健康に関する指導に長く、高い専門性と実践力を備えた指導者を養成

<人材育成のイメージ>

- 小学校教諭、幼稚園教諭として、教科指導や体育行事・活動をリードする
- 児童館、学童保育、スポーツクラブ等、地域における体力づくり、スポーツ指導の専門家をめざす

幼児教育保育コース

体づくりや運動遊びを積極的に実践し、乳幼児の発達を総合的に指導・支援できる指導者を養成

<人材育成のイメージ>

- 幼稚園教諭や保育士として、専門的に体づくり・運動遊びの指導に携わる
- 児童の発育・発達、教育、食や栄養、障害などについて理解し、健康生活の指導・支援に高い専門性を発揮できる

<取得可能な資格・免許(予定)>

- 小学校教諭第一種免許状※
- 幼稚園教諭第一種免許状※
- スポーツリーダー
- ジュニアスポーツ指導員
- 障害者スポーツ指導員
- 健康運動実践指導者 など

<取得可能な資格・免許(予定)>

- 幼稚園教諭第一種免許状※
- 障害者スポーツ指導員
- 保育士※
- 認定ベビーシッター など

※については申請中

●募集人員

学科	コース	入学定員	推薦入試	一般入試
児童スポーツ教育学科	児童スポーツ教育コース	150名	75名	75名
	幼児教育保育コース	50名	25名	25名
合計		200名	100名	100名

※入学試験についての詳細は「児童スポーツ教育学部案内2013」を参照してください。

児童スポーツ教育学部は子どもたちの人生を豊かにすべく、保育園、幼稚園及び小学校の先生を養成し、これらの方々の保育力と教育力を借りて未来の日本を切り拓く子どもたちを育成するための一大事業に乗り出します。

子どもと社会の未来を見据えて

わが国の人口は3年連続して減少、65歳以上の人口比率は約23%（4人に1人）となり、社会構造が大きく変化している。高齢社会をどう生きるか。とりわけ、変化が加速する将来において、未知の課題に挑んでいかなければいけない子どもたちにとって、「健康」はかけがえのない財産となるだろう。次代を託す子どもたちのために、日体大が立ち上がった。

なぜ 児童スポーツ 教育学 なのか？

高齢社会を迎え、様々な課題が浮き彫りになっています。中でも、健康は重要なテーマの一つです。一人ひとりの生活の基盤を支えるとともに、医療・保険制度など社会の仕組みにも関わってきます。健康は、中高年になってスポーツを始めても、付け焼刃で得られるものではありません。子どもたちや若い人たちは、健康である方が多いために、その大切さの認識は薄いでしょう。子どもの頃からスポーツの楽しさ、大切さを理解し、正しい方法を身につけた上で実践していくことが、豊かな未来づくりに欠かせない取り組みとなります。そのための指導者・専門家を育成することが急務であることは言うまでもありません。

児童スポーツ教育学を展開する社会的状況を整理します。

- ① 児童の体力や運動能力の向上と生涯にわたる健康の維持増進の基礎づくり
 - ② 自然と調和した健康な生活の取り戻し
 - ③ 保育所・幼稚園、小学校における運動遊びとスポーツ、体育指導の改善
 - ④ 子どもの豊かな人間関係や社会性を育む運動遊びやスポーツ
 - ⑤ 子育てと教育における幼稚園と保育所の一元化と幼稚園から小学校の連携
- こうした児童の生育・生活環境と心身の発育・発達を取り巻く環境を踏まえ、日体大は次代を担う子どもたちを育成する指導者を養成するために、新学部を構想しました。

なぜ 新学部 なのか？

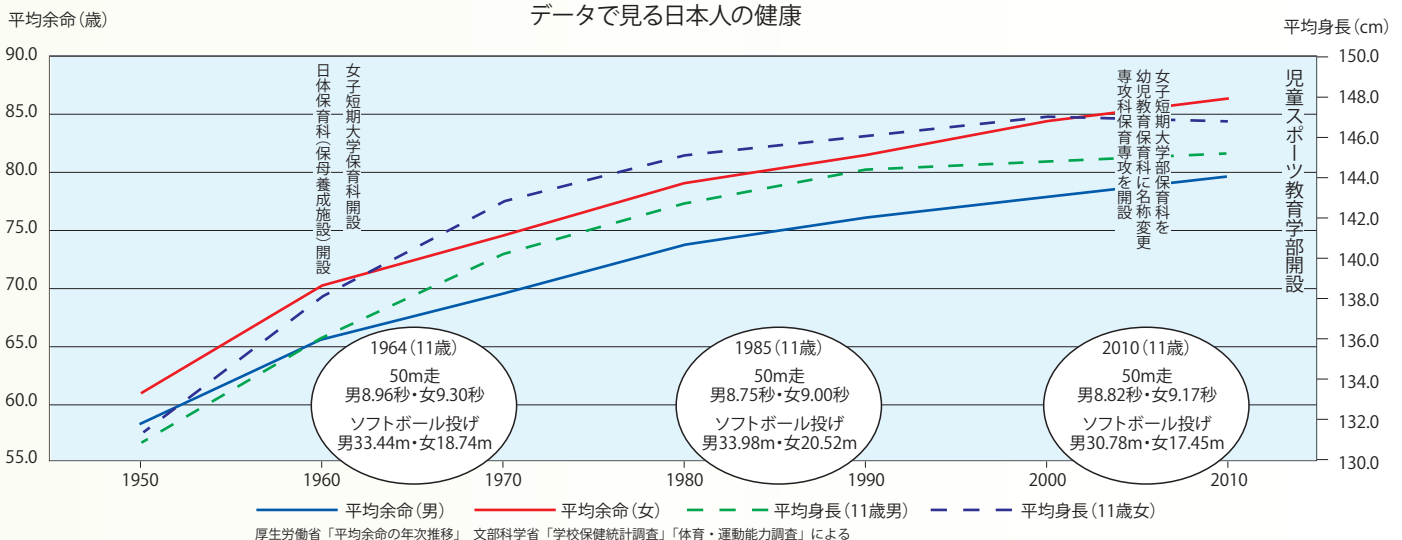
2013年4月にスタートする「児童スポーツ教育学部」は、日体大の120余年にわたる歴史の中で初となる「新学部」の設置です。

本学はこれまで、オリンピックや国際大会で活躍するアスリート・指導者、中学・高校の学校現場で活躍する体育教師を養成し、社会に貢献してきました。「体育・スポーツの日体大」としての使命は普遍ですが、一方でスポーツを取り巻く環境は変化しています。

平成23年に制定されたスポーツ基本法の前文は「スポーツは、世界共通の人類の文化である」という文言から始まります。さらに、「国民が生涯にわたる心身ともに健康で文化的な生活を営む上で不可欠のもの」とされ、「日常的にスポーツに親しみ、スポーツを楽しみ、又はスポーツを支える活動に参画することのできる機会が確保されなければならない」と指針が述べられています。

このように、スポーツへの期待が高まり、その重要性がいつそう認識されています。社会構造が変化し、人々の価値観・生活様式が多様化する中で、現代社会の諸課題を解決するためには、スポーツにおいてもこれまで以上に多角的な視点に立った取り組みが必要です。建学の精神が示すのは、突き詰めれば、人々に健康、幸せをもたらし、真に豊かな国家・社会の形成に貢献すること。未来においてもその使命を果たすべく、本学は新しい挑戦を果敢に続けます。

データで見る日本人の健康



日体大初となる新学部誕生

他大学と どこが 違うか

さらに、児童スポーツ教育コースにおける「児童スポーツトレーニング学」や「児童スポーツコーチング学」、幼児教育保育コースにおける「子どもの運動遊び」や「子どもと健康」等、本学の豊富な研究・実践を活かした授業が展開されます。

このほか、教育・保育における教科・領域の内容・指導法に関する科目はもちろん、実習科目や演習科目（ゼミナール）、教養科目、言語コミュニケーション等の多彩な科目により、社会人として身につけるべき能力・資質の養成にも力を入れ、即戦力となる人材を育てます。

児童・幼児教育系の学部は他大学でも多く設置されていますが、やはり体育大学ならではのメリットが遺憾なく発揮されている点が新学部の特徴です。

カリキュラムでは、児童期に照準を定めた「スポーツ教育」論や「健康教育」論、「スポーツ指導」論等の科目を配するとともに、スポーツ実技（選択必修）のバリエーション（体づくり運動「体操」、ダンス、器械体操、陸上競技、水泳、ボールゲーム、柔道、エアロビックスエクササイズ、レクリエーション等）も他大学に類を見ない充実した内容を誇ります。



日本人の カラダは どうなっている？

東京オリンピックが開催された1964年の平均余命は男性67.67歳、女性72.87歳。それから50年近くが過ぎ、2011年は男性79.44歳、女性85.90歳まで伸びました。1960年代に日体大は保育科を開設、また大学生の皆さんのお父さん・お母さんが生まれた時期（50歳代前半～40歳代後半）にもあたります。

この間、体格（身長）で見ると、1964年は11歳男子138.2cm、同女子140.0cm、2011年は同男子145.0cm、同女子146.7cmと7cm程度の差が見られます。文部科学省が「体力・運動能力調査」を始めたのも1964年。50m走、ソフトボール投げのデータの変化は図の通りです。体格が向上している一方で、子どもの体力・運動能力は1985年頃から現在まで低下傾向が続いています。また、最近では靴の紐が結べない、スキップができないなどの身体を操作する能力の低下、さらに肥満や運動不足による病気の危険性も指摘されています。

その背景には、核家族化、外の遊び場所・機会の減少、テレビゲームの普及などさまざまな要因が考えられます。都市部の子どもの体力・運動能力の低下が顕著なもののためでしょう。活力ある社会をつくるためにも、体育・スポーツの普及が不可欠です。

「領域制」スタート

今、大学生の学士力が問われている。

高度な技能・専門性を身につけるとともに、学んだことを社会でどう活かすか。

それは、学び方や生き方の本質に関わってくる。

学生の自己実現に資するため、学ぶ目的や態度を明確にした新カリキュラムが始まる。

さらなる教育体制の充実を図り、いっそう逞しい日体生を育てていく。

なぜ
「領域制」
なのか

2013 カリキュラムは こう展開する

学生にどう気づきを与えていくかという点で、私たち教員もいっそうの責任を自覚しています。学生が持つ可能性を引き出していく。そのために最適な指導を行っていく。カリキュラムポリシーに掲げる能力を養成していくためには、授業のあり方がますます問われます。いい授業をしなければ、学生の力がつかないのは当然です。「わかる」ことで、学生が学ぶ・知る喜びを実感することが出来ます。学生による授業評価、教員間授業公開、研修等を進め、皆さんの期待に応えていきたいと考えています。

卒業生も含めて369名。全国でトップレベルの実績です。早くから目標を明確にし、計画・実行・評価・改善のサイクルを繰り返して努力を続けていく。こうした学生が優れた結果を残していることは言うまでもありません。新カリキュラムが目指す総合的能力の鍛錬により、持てる技術や知識が最大限に発揮されていくはず。これを踏まえ、授業、部活動、諸活動、すべてが有機的に連携し、学生の気づき、成長の場となるように、展開していきます。

新カリキュラムの導入にあたっては、若手教員を中心とするフォーラムを組織し、自由な発想によるブレインストーミングを重ねてきました。それを踏まえて教務委員会ですらに検討を重ね、カリキュラムポリシー（別掲）が構想されました。具体的には、習得すべき力として、「問題解決力」「組織的行動力」「コミュニケーション能力」「自己表現力」「知識獲得力」「実技能力」「英会話能力」「専門性」を掲げています。これらはアスリート、コーチ・指導者、教員志望者、民間企業就職希望者、すべてに共通するものです。

昨年のロンドン五輪には、現役学生7名を含め、日体大関係者23名が出場しました。役員を入れると50名近くになります。一方、昨年の教員採用者（公立）は、

領域制を導入したポイントは、日体大の「学習内容」と「学んで身につく力」をより明確に打ち出したことです。体育学というと、高校生や一般の人々にとつてやや旧態依然としたイメージがあります。しかし、日体大で展開されている教育・研究は、理論と実践が融合した最先端の学問であることは皆さんもご承知の通りです。専攻とは、ある学問を専門的に進めること、領域とは、広い観点から俯瞰しつつ専門性を深めていくという意味があります。他の学問領域と同様に、体育・スポーツの領域でも、多様化・学際化が進んでいます。実践に重きをおきながらも、教育はもとより、情報、文化、医療・福祉、国際など、さまざまな分野と関連を持ちながら、いっそうの広がりを見せています。まさに「領域」は、時代の変化に合わせて新たに導入する2013カリキュラムに最も相応しい表現です。

さらに時代は、高い専門性とともに、人間性や社会性といった社会で生きる力を身につけた、つまり真の「学士力」を備えた学生を養成するよう強く求めています。既存のカリキュラムは資格等の専門性にやや重点が置かれてきました。新カリキュラムでは、日体大で何を学び、どういう力が身につく、それが社会でどう活かせるのかを、一本の連続した線のように体系的にとらえている点が特徴です。それが、資格や就職につながっていくわけです。「日体生ならこんな能力がある」「こんな活躍ができる」というところを、これまで以上に自信を持って社会に発信していきたいと思っています。

2013 カリキュラム体系

スポーツ教育領域 競技スポーツ領域	主に学校教育の指導者を養成 トップアスリートやコーチングスタッフ、アスレティックトレーナー等を養成
ヘルスプロモーション領域 ソーシャルサポート領域	主に養護教諭や衛生管理者などを養成 社会福祉支援のできる人材を養成
武道教育領域 伝統芸能領域	武道教育を推進できる指導者を養成 伝統芸能の普及を担う人材を養成
生涯スポーツ領域 スポーツマネジメント領域	自然環境教育・アウトドアスポーツや障害者・高齢者スポーツ等の専門家を養成 スポーツ現場や行政で、マネジメントや地域スポーツ振興を担う人材を養成



体育学部が新しいステージへ



体育学部長 具志堅 幸司 教授

運動方法(体操競技)研究室

日本体育大学 体育学部 体育学科 卒業 (S54.3)

天皇杯受賞(5回)、内閣総理大臣賞受賞(5回)、文部大臣
賞受賞(S58)、紫綬褒章受章(H17)、ロサンゼルスオリン
ピック個人総合金メダリスト

現在、神奈川県教育委員会委員長としても活躍

大学生活を どう過ごすか

どのような進路を目指すに
せよ、どうか学ぶ喜びを感じ、
「毎日大学に来るのが楽しい」
「日体大でこれだけのことを
学んだんだ」と胸を張って言
える学生になって欲しい。日
体大でしっかり学べば、どん
な社会でも通用する能力が身
につくと自負しています。

喜びとは、単に楽しむだけの営みとは少し意味合いが違
います。スポーツに対する考え方が多様化してきて、とに
かく体を動かすことが好きだから日体大に来たという学生
も増えています。部活動に加えて、サークル・同好会が活
発になっていることも、こうした傾向の現れでしょう。ス
ポーツが好きなことは原点であり、非常に重要なことです。
ただ、それだけにとどまらず、少しでも競技レベルを向上
させる、あるいは地域・社会に貢献する活動を行うといっ
たように、高い意識を持って行動して欲しいのです。そこ
から、本当の喜びが生まれると思います。新カリキュラム
ではこれまで以上に学びたい科目を柔軟に履修できるよう
になります。有効に活用し、学習や諸活動に主体的に取り
組んでください。

日体大の 教育を 内外に発信



日体大には「體育富強之基」と
いう建学の精神(理念)のもと、明
確なミッション(社会的使命)、ビ
ジョン(目標)があります。変えて
はならない軸はしっかりと守り、
一方で時代の進運に合わせて、変
えるべき点を果敢に改革していく
ことは当然です。2013カリ
キュラムは、日体大が育成する人

物像、教育の指針を、内外に向けてメッセージとして発信
するものでもあります。新学部構想をはじめ、今後も不断
の改革に取り組んでいきます。日体大について理解を深め
るとともに、今後の展開にご期待頂ければ幸いです。

受験生の皆さんも、まずは日体大についてよく知っても
らうため、オープンキャンパスに参加して欲しいと思いま
す。昨年竣工したトップクラスの設備を誇る東京・世田谷
新キャンパス、広大な敷地の中でさまざまな授業や部活動
が展開されている横浜・健志台キャンパスを自分の目で確
かめてみてください。さらに、わからないこと、不安に思
うことを、遠慮なく私たちに質問してください。日体大は
こんな学生を育てたい。自分はいこうりたい。それがマッ
チした受験生にぜひ入学して欲しいのです。満足のいく4
年間の過ごし方を約束します。

体育学部のカリキュラムポリシー (育成すべき人材)

高度な教養に裏づけられた国際性および
市民性と体育・スポーツに関する専門的
な実践力と知識とを兼ね備え、問題解決
力、組織的行動力、コミュニケーション
能力などの総合的能力をもって社会にお
いて強い即戦力になるとともに、将来に
わたってキャリアアップを図ることので
きる人材。

(学部体系対比) 新カリキュラムにおける 体育学部教育体系

学 科	2009 カリキュラム
体 育 学 科	スポーツ教育専攻 スポーツコーチング専攻 アスレティックトレーニング専攻
健 康 学 科	健康教育専攻 福祉支援専攻
武 道 学 科	武道教育専攻 伝統芸能専攻
社会体育学科	地域スポーツ専攻 スポーツマネジメント専攻 アウトドアスポーツ専攻 セラピューティックレクリエーション専攻



スポーツ交流会で絆を深め、体育研究発表実演会で感動に触れる
支援活動の新たな一歩となった

日体大スポーツキャラバン

総勢約250名の日体大アスリートが岩手県・宮城県・福島県の東北3県を巡った。「日体大スポーツキャラバン」は、伝統の「体育研究発表実演会」と、現地の学校・体育館等で子どもたちにスポーツの楽しさを体験してもらう「スポーツ交流会」を同日開催する新しい試み。身近でスポーツを教えてくれた「お兄さん」「お姉さん」が、アリーナに立ち一流の演技を披露する。生きた交流、感動を通して、被災地の方々に力強いエールを送りたいという思いから実現した。



日本体育大学
スポーツキャラバン
実施委員長
三宅 良輔 准教授

日体大にふさわしい 支援活動を 続けていきたい 信頼と期待に応えて

まず、紙面をお借りして、「日体大スポーツキャラバン」（体育研究発表実演会・スポーツ交流会）実施にあたり、お力添えを頂きました皆様にご心より御礼申し上げます。

東日本大震災発生以来今日まで、日体大から延719名（12月6日現在）の学生が被災地における支援活動に参加しました。「また来てくださいね」「もちろん来ます」。こうした二つひとつの信頼と期待の積み重ねが、今回のスポーツキャラバンにつながりました。支援活動を通して、被災地で活動されているOB・OGの先生方との間に緊密な関係が築かれ、その中で「日体生のスポーツに打ち込む姿が子どもたちの励みになる。次の目標を見つけてさせるために、ぜひ子どもたちが『本物のスポーツ』を身近で見る機会を作って欲しい」という声を頂きました。被災地にいらつしやるOB・OGの先生方には、多忙な中で、平日開催となる会場の授業のやり繰りなど多大なお骨折りを頂きました。大学側も、会場の確保から広報活動ま

で、これまでにない体制で運営に携わりました。まさに、東北でやろうと、全学が心一つになり実現したわけですから。これまでの支援活動で、日体生の明るさ、元気の良さが被災地の方々に受け入れられ、「日体生は違う」と評価頂いたことは嬉しい限りです。昨年は、学校が使えない、体育館が避難所になつているなど、とてもスポーツができる状況ではありませんでしたが、今年ならできる！子どもたちも次の一歩を踏み出しつつある。期待に応える絶好のタイミングであったと思います。これまでは、瓦礫撤去やマッサージなどの活動、スポーツ指導員の派遣など、被災地の方々の要望に応えた支援活動を行ってきましたが、日体大として何か主体的な提案ができないかと考えました。私たちにスポーツがある。日体大が持つ一流のスポーツ演技発表と、学生による各種目のスポーツ指導を東北に届けよう！と企画が具体化しました。日体大から働きかけという点で、支援活動の新たな一歩を踏み出すことができたと思っています。



日体大スポーツキャラバン
平成24年度 体育研究発表実演会

日体大スポーツキャラバン
平成24年10月12～16日



10/12【岩手県宮古市】

●体育研究発表実演会

宮古市民総合体育館シーアリーナ
現地団体による演技…虎舞(山田南小学校)

●スポーツ交流会

宮古市立山口小学校、県立宮古商業高校、
山田町立船越小学校、山田町立山田南小学校、宮古市立津軽
石保育所 宮古市立不老保育所、宮古市立磯鶏保育所

10/13【宮城県気仙沼市】

●体育研究発表実演会

気仙沼市総合体育館ケー・ウェーブ

●スポーツ交流会

東陵高校、気仙沼市立新城小学校、気仙沼市総合体育館
ケー・ウェーブ(岩手県大船渡中学校生徒)

10/14【宮城県石巻市】

●体育研究発表実演会

石巻市総合体育館
現地団体による演技…港中ソーラン(港中学校)、
鳴瀬松童太鼓(鳴瀬第二中学校)

●スポーツ交流会

石巻市総合体育館、宮城県立石巻高校、石巻市立港中学校

10/15【福島県須賀川市】

●体育研究発表実演会

須賀川アリーナ
現地団体による演技…松明太鼓(松明太鼓小若組)

10/16

●スポーツ交流会

須賀川アリーナ、須賀川市立第三小学校、鏡石町立第一小学
校、須賀川市立白方小学校、須賀川市立白江小学校、須賀川
市立大東中学校、天栄村立広戸小学校、天栄村立牧本小学
校、天栄村立天栄幼稚園

10/16【福島県本宮市・郡山市】

●スポーツ交流会

本宮市立本宮小学校、本宮市立本宮まゆみ小学校、郡山市立西田中学校

10/16【福島県いわき市】

●スポーツ交流会

いわき市立藤原小学校、いわき市立赤井小学校、いわき市立内郷第二中学校、
いわき市立大浦小学校、いわき市立夏井小学校、いわき市立高久小学校

●スポーツ交流会 参加団体

体操部、体操競技部、トランポリン部、剣道部、サッカー部、バドミントン部、ハンドボール部、陸上競技部、ダンス部、
応援団、チアリーダー部、ダブルタッチサークル、男子第一学生寮生、武道学科伝統芸能専攻生



たくさんの方々の笑顔に触れて

スポーツ交流会は会場により実施スタイルが異なり
ました。授業の中で開催した会場では、例えば体操部
が学校に伺い、全校生徒にマット運動を体験してもら
うというような内容。帰りのバスに乗車する際に、全
校生徒が手を振って見送ってくれるという光景も見ら
れました。また、土曜・休日に開催した会場では、剣道
トランポリン、ダンス、エッサッサなど同時進行で披
露し、スポーツイベントのような形で楽しんで頂きま
した。訪問先の学校からお礼のお手紙をたくさん頂き
お役に立てたことを嬉しく思っています。

一方で、実演会は私たちが主役。一流の演技を披露
し、感動に触れて頂くことを一同で誓い合いました。
多くの方は、テレビでは見たことがあるけれど、演技
を生で見るのは初めて。「トランポリンってあんなに高
く飛ぶの」と、目を輝かせて演技に注目する子どもた
ちの姿が印象的でした。さらに、エンディングは、応
援団および全学生達による地名を盛り込んだエール。
会場の観客が立ち上がり、拍手が鳴り止みませんでした。
お別れには、出口で学生が金メダルを形取ったチョコ
レートをお土産に渡すお見送りも「よかったよ」と
言葉をかけて頂き涙ぐむ学生も見られました。

被災地の方々から、逆に元気をもらった。不自由
な状況の中で頑張っている方々がたくさんいる一方で、
私たちはとても恵まれている。日頃からやるべきこと
にいつそう真剣に取り組んでいかなければいけないと、
学生たちは感想を述べていました。

部の垣根を越えて、一つになって取り組んでくれた
学生たち。スポーツの指導力とともに、日体生が優れ
たコミュニケーション能力、ボランティア精神を持つて
いることをあらためて実感しました。顔つきがどんど
ん変わっていく様子を目の当たりにしました。しかし、
このスポーツキャラバンが成功だったのか、その答えを
出すのはまだ早いと思います。被災地の方々からまた
来てくださいと呼ばれる、あるいは学内からももう一
度行ってみたいと声がある。さらに、何年か経って復
興を遂げた時に、また見たいという声にこえて東北で
実演会を開催する。その時にこそ今回の真価が明らか
になるのではないだろうか。

私たちがすべきこと

今回、実演会に加えてスポーツ交流会を行ったこと
で、従来現地で行っていたリハールを事前に学内で
行うなどの制約がありました。それでもスポーツ交流
会を実現したのは、学生に被災地の方々と直接的な触
れ合いをして欲しいと強く思ったからです。演技を見
せて帰るだけではないのか。震災の被害に遭った子ども
の声を聞く。そのことで、学生自身もさらにいい演技を
見せようと奮起する。お互いに頑張ろうという気持ち
の絆もいつそう強くなるはず。スポーツ交流会で一緒に
スポーツを楽しんだ子どもたちが実演会にも来てくれ
るという展開にこだわりました。

学生に「何をするために来たのか」、自覚を促すこ
とにも注力しました。勉強会を行い、今回訪れる岩手
県、宮城県、福島県の被害状況と現状について情報を
共有。さらに、バスで移動する際、被害の爪痕が残る
場所をあえて経由し、意識を高めました。こうした取
組みが、学生のモチベーションにつながっていったと
思います。

支援活動に参加したいという気持ちがあっても、練
習や試合に忙しく、被災地に赴くことができないとい
う学生も多いでしょう。ただそうした学生たちにも、
ぜひ震災について関心を持ち、忘れないでいて欲しい
と思います。そして、今回参加した学生たちは、スポー
ツキャラバンでの体験を自分の周囲の人々に伝えて下
さい。伝えることで、今回の活動がまた学内で広がっ
て行きます。

2年弱支援活動を続けてきて、初動の緊急的な支
援活動はひと段落ついたのではないかと感じています。
もちろんこれまで行ってきたきめ細かい支援は継続的
に行っていますが、これからの活動はいっそう「目体
大らしく」あるべきではないでしょうか。一つの視点は
スポーツをどう活かすかということ。もう一つは、学
生たちにどう教育的に影響を与えることができるか。
こうしたことを踏まえて、今後の被災地支援活動・プ
ログラムを検討していくべきと考えています。もちろ
ん対象は東北に限られません。世田谷や横浜だけでもあ
りません。体制を整え、日体大の地域貢献が日本全
国に展開していくことが理想です。





福島県の須賀川市出身ということで被災地への想いは強く、震災翌日から都内で募金活動をするなど被災地支援に取り組み、東京都内や現地へ赴いてボランティア活動をしています。キャラバンでは、発表実演会とスポーツ交流会と並行して、演技者のサポートやインタビューなど、また日体大の復興支援活動のようすを現地の被災地のみなさんに知らせる展示コーナーがあるのですが、主にそちらを担当。キャラバンの活動での触れ合いを通じて、「日体大はいい大学だね」「日体大に支えられているよ」などと、現地の方々が年齢関係なく喜んでくれたのが印象的です。また、キャラバンの活動のようすを大学や東京に持ち帰り、イベントなどを開催して報告するのも大きな仕事で、1人でも多くの方々に被災地の現実を知ってもらえればと思います。そのためには、言葉だけでは伝えるのが難しいので、VTRをつくるなど視覚に訴えるしかけをしていかなければいけないと思っています。3.11から学んだ教訓の数々、日体生には自分たちの可能性、思いやりを伝え、いつしか忘れられることがないようにこのキャラバンがよいきっかけになればいいと思います。



星田 弘祐さん
体育学部社会体育学科3年
郡山高校出身

経験したこと、 たくさんの人に伝えていきたい



日体大の復興支援プロジェクトに参加して石巻を訪れたのは昨年の1月。そこで見た被災地の光景は、今思い出しても涙が出そうになります。そのときはじめて、震災は自分にとっても問題だという意識が芽生え、キャラバンにも行くのも当然という感覚でした。キャラバンに参加する前に、被災地のことを学ぶ勉強会があるのですが、それによってみんなより一層強い気持ちで実演会や交流会に臨んでいたと思います。私は広報スタッフの一員として、中学生や高校生に目標や夢を宣誓してもらうビデオ撮影に従事。「甲子園に行くぞー！」など元気に語ってくれる子どもたちの姿を見ると未来に希望が持てるような気がしました。現地での交流を通じて感じたのは、被災地の人々に比べれば、自分は何不自由なく暮らしていて、将来の不安もなく恵まれているということ。そんな自分が怠惰な生き方をしてはいけないと実感し、以前より自らを厳しく律するようになりました。



中條 なつみさん

短大・幼児教育保育科2年
川崎北高校出身





景山 璃奈さん
短大・体育科1年
和洋国府台女子高校出身



2012年入学なので、実演会ではじめて日体生のスポーツ実技を見ることに。トランポリンも体操も、とても高く跳びますし、爪先まで手足がしっかり伸びているのを見て「やはり日体大はすごい!」と思いました。私は、日体大の復興支援の様子を被災地のみなさんに知らせるブースで活動。支援活動のレポートの見せ方に工夫を凝らしたことを覚えています。最初は、単にレポートを貼っていただけでしたが、それでは分かりにくいということで、地図上で訪れた被災地を色づけしたり、「2011年5月」など書いた色画用紙を円形に切ってレポートの上に貼り、訪問した月がわかるようにしたりしました。スポーツ交流では、小学生に器械体操を教える体操競技部員のヘルプで、マット運動の補助を担当。こうした活動は、日体生ならではの支援活動だと感じました。また大勢の日体生がキャラバンに参加していて、日体大にはいい人がたくさんいるんだな、と嬉しくなりました。

スポーツキャラバンで見たこと、 子どもたちの元気を



小曽根 菜波さん
体育学部体育学科3年
鎌ヶ谷高校出身



実は、今日集まった4人は復興支援を目標に立ち上げたサークルのメンバーの一員で、せっかくだからキャラバンも、ということになりました。私の主な役割は、それまで被災地で日体大が行った支援活動のレポートを作成し、それをキャラバンの活動場所で掲示して、被災地のみなさんに知っていただくこと。キャラバンへの参加が決まってから当日まで2～3週間ぐらいと日にちがなく、毎日、遅くまで準備に追われることに。また、キャラバンの活動成果を大学に戻って報告するため、実演会やスポーツ交流会の写真撮影も行いました。これらの仕事は、大学職員の方と協力してやりましたが、ほかに大学の先生やさまざまな年齢の被災者の方々と言葉を交わし、意見や思いを交換できたのはいい経験です。異年齢の人、特に大人の考えに触れたことは大きく、今まで私は、同年代の人だけで構成される狭い世界でしか生きていなかったことを痛感させられました。



2012 ロンドンオリンピック・パラリンピック報告会

日本体育大学 日本体育大学女子体育学部

あの真夏の感動から3ヶ月——。11月21日、ロンドンオリンピック・パラリンピック報告会が、大会期間中は現地ロンドンに勝るとも劣らぬ盛り上がりを見せたパブリックビューイング会場となった東京・世田谷キャンパス記念講堂で行われた。会には体操男子個人総合で日本選手28年ぶりの金メダルを獲得した内村航平選手、男女を通じて団体での同種目初の銅メダルを獲得したアーチェリーの早川澁選手など14名の大会出場選手が出席。選手たちは応援団からのエールを受けると、早くも4年後のリオデジャネイロへ向けての意気込みを語り、会場からは大きな拍手を浴びていた。



エースの活躍。初舞台の興奮。それぞれのロンドンを振り返る ロンドンオリンピック報告会

チーム、応援くださった皆さんに感謝



田中 理恵

たなか りえ(体操) 日体大研究員

沢山の方の応援に本当に感謝したいと思います。決勝の舞台で、チーム全員が力を合わせて演技を出来たことが嬉しかったです。オリンピックの独特の空気感は、いつもの日体大の体育館の雰囲気とは違いました(笑)。目標としていたオリンピックの舞台に立てた経験を、今後の大会でも生かしていきたいです。いつまで選手として続けられるかわかりませんが(笑)、出来る限りの努力を続けていきます。今後も応援よろしくお願ひします。

東京オリンピックに出場したい



松本 弥生

まつもと やよい(競泳) 大学院1年

深夜にも関わらず、多くの日体大の仲間や近隣の方に応援をいただき、ありがとうございました。今回の結果は力を出し切ったものですが、オリンピックに出場できたことだけで満足することなく、まだまだ現役選手として目標を追い続けたいと思っています。まずは来年のユニバーシアードで活躍したいです。そしてリオデジャネイロはもちろんですが、8年後は30歳になりますが(笑)、是非(現在招致中の)東京オリンピックに出場したいと思っています!

再びオリンピックの舞台に立つ



高橋 美帆

たかはし みほ(競泳) 体育学科2年

初めてのオリンピックは、決して満足のいく成績は残せず、今でも悔しさを毎日思い出してしまいます。そしてその悔しさを晴らす舞台はオリンピックしかないと思っています。目標はもちろんリオデジャネイロで活躍できる選手になること。あのオリンピックの舞台にもう一度立ちたい、その気持ちを忘れず、今後の練習に取り組んでいきます。多くの方の応援、本当にありがとうございました。

金メダルを自信に今後も全力を尽くしていく



内村 航平

うちむら こうへい(体操) 所属:コナミ

目標としていた団体での金メダルを取れずに悔しい思いもあります。だからこそ、個人総合では何としてでも結果を出したかった。金メダルは4年前に表彰台で羨ましいなと思って見ていたもの。それが自分で取れて本当に嬉しい、応援してくれた方、支えてくれた方に感謝したいです。試合ではプレッシャーというよりは、自分のこれまで出てきた演技をしたいという気持ちの方が強かったです。今後は一つずつ、やってくる試合に全力を尽くしたいです。

自分の100%の力が出せた



鶴見 虹子

つるみ こうこ(体操) 体育学科1年

予選の演技の際、とても緊張しましたが、種目別(段違平行棒)で決勝に残ることができ、自分の100パーセントの力が出せたと思います。これも多くの方の応援のおかげです、ありがとうございました。4年後のリオデジャネイロということよりも、まずは来年の世界選手権の代表に選ばれることが目標です。今回の経験を目の前の大会で力に変えて、より世界の舞台で活躍できる選手になりたいと思います。

自分の力をしっかり発揮できる選手になる



堀端 裕也

ほりはた ゆうや(競泳) 体育学科4年

今回のロンドンでは6位入賞を果たすことが出来ました。日本競泳陣のトップバッターとして何とか役目を果たすことは出来たと思います。しかし、今回の結果は十分に満足できるものではありません。オリンピックというのは独特の雰囲気があり、どう楽しんで戦えるのが、良い結果を生み出す要因になると感じました。ロンドンで得た経験を、今後の試合に生かし、しっかり自分の持つ力を発揮できる選手になりたいです。

■日体大関係者＜メダル・入賞者＞

内村 航平	体操 男子個人総合	金メダル
	体操 男子団体総合	銀メダル
	体操 男子個人ゆか	銀メダル
山室 光史	体操 男子団体総合	銀メダル
丸山 桂里奈	女子サッカー	銀メダル
近賀 ゆかり	女子サッカー	銀メダル
川澄 奈穂美	女子サッカー	銀メダル
北島 康介	競泳 男子400mメドレーリレー	銀メダル
	競泳 男子100m平泳ぎ	5位
	競泳 男子200m平泳ぎ	4位
松本 隆太郎	レスリング 男子グレコ60kg級	銅メダル
早川 漣	アーチェリー 女子団体	銅メダル
湯元 健一	レスリング 男子フリー60kg級	5位
糸山 真弓	シンクロナイズドスイミング 女子チーム	5位
箱山 愛香	シンクロナイズドスイミング 女子チーム	5位
田中 理恵	体操 女子団体総合	8位
	体操 女子個人総合	16位
	体操 女子個人段違い平行棒	7位
鶴見 虹子	体操 女子団体総合	決勝8位
	体操 女子個人段違い平行棒	7位
	体操 女子4×100mリレー	7位
松本 弥生	競泳 女子4×200mリレー	8位
	競泳 女子50m自由形	8位 予選敗退
	競泳 男子400m個人メドレー	6位
堀畑 裕也	競泳 男子800mリレー	5位 予選敗退
	フェンシング 女子フルーレ個人	ベスト8
菅原 智恵子	フェンシング 女子フルーレ団体	7位
阪本 直也	カヌー男子スクリプトカナディアンシングル200m	8位

ロンドン五輪における 本学関係者のメダル獲得数

金 1
銀 5
銅 2

※団体種目は1種目を1としてカウント

ロンドン五輪を含めて、
五輪の歴史における
本学関係者のメダル獲得数は
通算116個
日本が獲得したメダル総数の
約4分の1を
占めています。

競技人生を支えてくれた人たちに感謝



早川 漣

はやかわ れん(アーチェリー)

皆さんの応援のおかげで、銅メダル獲得という素晴らしい結果が残せました。ロンドンでは4年前の北京大会に出場した姉が常に心の中で支えてくれていました。これまで自分の競技人生を支えてくれた人に少しでも恩返しが出来たと思います。これからも沢山の大会が待っています。アーチェリーは他競技に比べて、年齢を重ねても現役を続けられます。4年後そして8年後にもこの報告会の舞台に来たいなと(笑)。

日体の後輩に自分の夢を叶えて欲しい



長谷川 恒平

はせがわ こうへい(レスリング)
所属：福一漁業

メダルの取れなかったコウヘイです(会場笑)。オリンピックへ向けて、厳しいトレーニングをした日々は自分の大きな財産となりました。10位という結果に悔しさは残りますが、精一杯試合を出来たことは満足しています。今後についてはまだ決めていませんが、リオデジャネイロでは日体の後輩たちが自分の思いを叶えてくれる番だと思っています。

リオに向けて日々の練習に取り組みたい



佐藤 冴香

さとう さやか(バドミントン)
体育学科4年

自分でも調子が良いと感じられた中で決勝トーナメントに進出し、格上の選手と思いきって試合が出来ていました。しかし、その試合中にけがをしてしまい、本当に悔しい思いで一杯です。沢山の応援の言葉をいただいたのに、申し訳ないです。ロンドンではバドミントンで初めて日本勢がメダルを取りました。それを見て、自分もメダルが取りたくなりました。リオデジャネイロへ向けて気持ちを切り替えて、日々の練習に取り組んでいきます。

日体の後輩に支えられたメダル



松本 隆太郎

まつもと りゅうたろう(レスリング)
所属：群馬ヤクルト販売

日本時間では深夜遅い時間の競技でしたが、多くの方が応援してくれたことを心から感謝しています。日体の後輩たちにも練習に何度も付き合ってくれたことを、この場を借りてお礼を言いたいです。銅メダルを取れたことは本当に嬉しい。しかし、同じレスリングの米満選手が金メダルを取ったのを見て、感動した反面、悔しさも感じ、自分も欲しくなりました(笑)。その悔しさを今後のキャリアで生かしていきたいと思います。

次大会はオール日体で出場したい



中野 希望

なかの のぞみ(フェンシング)
所属：大垣共立銀行

ロンドンで試合が出来たことは多くの方に支えられて実現したと思っています。試合会場は独特の雰囲気でしたが、客席から見える日の丸に何度も勇気づけられ、自分の力になりました。男子団体がメダルを取ったことで、フェンシングに多くの方が興味を持っていたと思います。その中で女子も結果を出したい。もちろん目標は4年後のリオデジャネイロ、今回は個人戦での出場でしたが、団体戦でも出場したい。その団体のメンバーはオール日体で行きたいです！

まずは一つひとつ結果を出していく



齋川 哲克

さいかわ のりかつ(レスリング)
所属：両毛ヤクルト販売

オリンピック前に皆さんからいただいた力を胸に戦いました。結果は残念でしたが、オリンピックという場所は、普段自分が経験することがない他競技の選手との交流などが実現し、素晴らしい舞台だなと思いました。いきなりリオデジャネイロを目指すというよりも、まずは一つずつ結果を出し続けていきたいです。12月の全日本選手権での優勝が直近の目標です。

リオデジャネイロでこの借りを返す



山室 光史

やまむろ こうじ(体操) 所属：コナミ

皆さんもご存じの通り、試合中にけがをしてしまいました。試合中のけがは初めてで、まるで夢を見ているような感じだったことを覚えています。しかし、自分に出来ることはオリンピックで起きたことを現実としてしっかりと受け止め、4年後のリオデジャネイロで借りを返そうと思います。学生時代に自分をしっかりと見つめ、そして悩んだことが今の姿を作ってくれました。今後も初心を忘れることなく体操に取り組んでいきたいです。

全力を尽くした結果に悔いはない



湯元 健一

ゆもと けんいち(レスリング)
所属：総合警備保障

前回大会でメダルを取ることが出来て、何とか2大会連続のメダリストになりたいと今大会を迎えました。プレッシャーはありませんでしたが、3位決定戦で負けてしまい、悔しい気持ちで一杯でしたが、思いきって戦った結果で悔いはありません。その悔しさは今後の自分の人生における財産になると思います。日体の後輩たち、多くの指導者の方からの応援に感謝したいです。



平成24年度〔下半期クラブの主な大会成績〕

学生支援センター 生活支援部門 調べ 9月～11月
 情報は新聞各紙（日体大スポーツ含む）・インターネットからの抜粋

クラブ名	性別	大会名	種目	順位	氏名
■アーチェリー	男子	第54回全日本ターゲットアーチェリー選手権大会		1位	佐藤 博乙 (3年)
■アメリカンフットボール	男子	関東学生アメリカンフットボールリーグ戦		3位	
■ウエイトリフティング	男子	第57回全日本ウエイトリフティング新人選手権大会	56kg級	1位	艾 幸太 (1年)
■空手道	男子	第23回関東学生空手道体重別選手権大会	84kg超級	ベスト8	小坂橋 明成 (3年)
	女子	第56回全日本大学空手道選手権大会	女子組手	3位	
■剣道	男子	第60回全日本学生剣道優勝大会		ベスト8	
■硬式テニス	男子	第23回関東大学対抗テニス選手権大会	日本体育大学Aチーム G-2ブロック	1位	
■自転車競技	男子	全日本学生トラックレースシリーズ第6戦	1kmタイムトライアル	2位	山内 厚二 (2年)
				3位	福沢 涼太 (3年)
			4kmインディヴィデュアルパーシュート	1位	倉林 巧和 (3年)
			ポイントレース クラス2	1位	坂本 東司雄 (3年)
				2位	大橋 涼 (1年)
				3位	山内 厚二 (2年)
			ポイントレース クラス1	1位	倉林 巧和 (3年)
			500mタイムトライアル	1位	小島 蓉子 (3年)
				2位	中村 妃智 (2年)
				3位	山田 まい (3年)
			3kmインディヴィデュアルパーシュート	1位	小島 蓉子 (3年)
				2位	中村 妃智 (2年)
	男子	日韓対抗学生自転車競技大会	団体 追い抜き	1位	倉林 巧和 (3年)
	女子		スプリント	3位	小島 蓉子 (3年)
			ポイントレース	3位	小島 蓉子 (3年)
■少林寺拳法	男子	第46回少林寺拳法全日本学生大会	二段以上の部	1位	
	女子		二段以上の部	2位	
	男女		団体の部	2位	
			二段以上の部	2位	
			団体の部	3位	
■柔道	男子	全日本学生柔道体重別団体優勝大会		3位	
		講道館杯全日本柔道体重別選手権大会	60kg級	1位	木戸 慎二 (4年)
				2位	志々目 徹 (3年)
			90kg級	2位	下和田 翔平 (4年)
■相撲	男子	第90回全国学生相撲選手権大会	個人戦	1位	中村 大輝 (2年)
			団体戦	3位	
■ソフトテニス	女子	関東学生秋季リーグ戦		2位	
■ソフトボール	男子	第43回関東大学ソフトボール選手権大会		3位	
■体操競技	女子	第66回全日本体操競技団体・種目別選手権大会	女子団体	1位	
			段違い平行棒	1位	鶴見 虹子 (1年)
			平均台	2位	鶴見 虹子 (1年)
■トランポリン	女子	インドパシフィック選手権大会	17歳以上 女子の部 個人	1位	伊牟田 萌 (1年)
			17歳以上 女子の部 シンクロ	2位	下 武士 (1年)
	男子		男子 シニア シンクロ	1位	中村 隆誠 (1年)
■バドミントン	男女	全日本学生バドミントン選手権大会	団体	1位	
	男子		個人 シングルス	1位	内藤 浩司 (4年)
	男女	関東学生バドミントン新人選手権大会	団体 男女	1位	
	男子		個人 シングルス	2位	
			個人 ダブルス	1位	
			個人 シングルス	1位	
			個人 ダブルス	1位	
	女子			2位	
■バレーボール	女子	秋季関東大学女子1部バレーボールリーグ戦		3位	
■フェンシング	女子	関東学生フェンシング選手権大会	エペ 団体	1位	
			エペ 個人	1位	堀川 こず恵 (2年)
		全日本学生フェンシング選手権大会	エペ 団体	1位	
■陸上競技	女子	日本ジュニアユース陸上競技選手権大会	棒高跳び	3位	福島 沙和子 (1年)
■レスリング	男子	全日本大学選手権	66kg	3位	小石原 拓馬 (4年)
			74kg	3位	山中 良一 (3年)
			84kg	2位	松本 岬 (4年)
			96kg	3位	佐々木 健吾 (4年)
■ダブルダッチ		DOUBLE DUTCH DELIGHT JAPAN 2012		1位	
■タッチラグビー	男子	全日本タッチ選手権		2位	
	女子			1位	
■フィンスイミング		学生選手権	団体	2位	
■水泳 (飛込)	男女	第88回日本学生選手権水泳競技大会 飛込競技	団体	1位	
	男子		3m 飛板飛込	1位	安永 元樹 (4年)
			3m 飛板飛込	7位	山田 晋吾 (4年)
			高飛込	2位	安永 元樹 (4年)
			高飛込	7位	田中 暉久 (1年)
	女子		女子 3m 飛板飛込	1位	辻原 朱里 (1年)
			女子 3m 飛板飛込	8位	小林 由佳 (1年)
			女子 高飛込	2位	辻原 朱里 (1年)
			女子 高飛込	6位	吉田 佳世 (3年)



TOPICS

交通安全講習会実施報告

12月8日(土)、横浜・健志台キャンパスにおいて実施された学友会秋季総会終了後、通学時における交通マナー啓発活動の一環として、神奈川県青葉警察署ならび青葉交通安全協会にご協力いただき、「交通安全講習会」を実施いたしました。

当日は、およそ2,000名の学生、教職員が参加し、実際の交通事故で多く見られるケースをスタントマンに実演していただき、事故の恐ろしさや交通ルールを守ることの大切さを改めて認識する催しとなりました。

また、本学卒業生でもあり、平成24年度第43回全国白バイ安全運転競技大会個人総合の部で優勝を果たした玉井伸政巡查長(神奈川県警第一交通機動隊所属)に模範運転実技もご披露いただきました。玉井巡查長は、1月2日 第89回東京箱根間往復大学駅伝競走(箱根駅伝)の往路(2区 六郷橋-戸塚付近)で白バイでの先導も務めました。



TOPICS

平成24年度OB・OG訪問会開催報告

平成24年12月1日(土)、東京・世田谷キャンパススポーツ棟メインアリーナにて、「平成24年度OB・OG訪問会」が開催されました。このOB・OG訪問会は本学の卒業が各業界の仕事内容や自身が行った就職活動での経験談を学生に語り、就職活動への意識を高める目的で昨年度から行われています。

今年は65名の卒業生にご協力いただき、学部3年生、短大1年生を中心に約800名の学生が出席しました。参加した学生からは「働くことの大変さや楽しさなどいろんなことを学ぶことができました」などの意見が聞かれ、本格的に始まる就職活動の良いスタートダッシュとなりました。



TOPICS

朝鮮民主主義人民共和国
スポーツ交流について

平成24年11月11日から17日の期間、国際社会の平和及び友好親善を目的として、本学を代表するクラブ(サッカー、レスリング、柔道)が朝鮮民主主義人民共和国へ招待されスポーツ交流を行いました。

各会場では友好的に交流が行われ、柔道では約3,500人、レスリングでは約4,000人、そしてサッカーでは約40,000人が会場を埋め、どちらの選手にも声援が送られていました。サッカーの試合終了後には、学生たちがスタンドの観客と握手を交わすなど「平和のためにスポーツが機能する姿」をみる本当に素晴らしい交流の場となりました。



TOPICS

日体フェスティバルが開催されました。

平成24年11月2日～4日、に東京・世田谷キャンパスにおいて第46回日体フェスティバルが開催されました。平成13年以来となる東京・世田谷キャンパスでの開催となり、新しい世代で、新たに歴史を刻んでいけるように。また、東日本大震災復興支援もこれからやれることを始めていこうという意味をこめてこの今年のテーマは「NEW GENERATION ～刻む足跡～」となりました。当日は、さまざまなイベントが行われ大変盛況に開催することができました。





日本体育大学 入試情報!

体育学部一般入試A方式と児童スポーツ教育学部推薦入試の出願期間は終了しましたが、
 まだまだ日体大の入試はあります! 下記を確認してみよう!

★体育学部 一般入試 B方式(募集人員:20名)

		体育学科	健康学科	武道学科	社会体育学科
一般入試 B方式	出願期間	平成25年2月5日(火)～平成25年2月18日(月)			
	試験日	平成25年3月3日(日)			
	合否発表日	平成25年3月5日(火)			
	入学手続締切日	平成25年3月13日(水)			

試験科目

全学科共通			
一般入試 B方式 筆記試験300点	筆記試験(60分) マークシート方式	必須	国語(国語総合:古典を除く)
		選択	外国語(英語I・II) 2科目から1科目選択 数学(数学I)

※一般入試B方式は、「実技試験」はありません。

★児童スポーツ教育学部 一般入試 ●児童スポーツ教育コース 75名 ●幼児教育保育コース 25名

		児童スポーツ教育コース	幼児教育保育コース
一般入試	出願期間	平成25年2月5日(火)～平成25年2月18日(月)	
	試験日	平成25年3月2日(土)	
	合否発表日	平成25年3月5日(火)	
	入学手続締切日	平成25年3月13日(水)	

試験科目

2コース共通			
一般入試 筆記試験200点	筆記試験(60分) マークシート方式	国語(国語総合:古典を除く)	
		外国語(英語I・II)	

大学の情報をゲットしよう!

NITTAIDAI [大学キャンパス見学会] オープンキャンパス2012

2013年 3/24(日) 予約不要・入退場自由

◆開催時間..... 10:30～15:00(受付時間10:00)
 ◆場所..... 日本体育大学 東京・世田谷キャンパス

児童スポーツ教育学部説明会

2013年 1/20(日) 2/10(日)

◆開催時間..... 13:00～16:00
 ◆場所..... 日本体育大学 東京・世田谷キャンパス

大学を感じる

- 歓迎セレモニー(演技発表会)
- 体験授業
- キャンパスツアー
- 学生会クラブ・サークルコーナー



教員・学生と話そう

- ガイダンス(学部学科・入学試験など)
- 保護者向け講座
- 高校生対象の個別相談コーナー
- 大学の教員と話そう
- 日体大生とのトークコーナー



〔編集後記〕2013年のスタートに日体大陸上競技部が30年ぶりとなる箱根駅伝総合優勝を果たしました。素晴らしい1年となることを予感させるにはこの上ない快挙に、「感動」というお年玉をもたらした気分になりました。ゴール直前、アンカーの谷永君が大学のロゴを指して走ってくれた時、涙したのは私だけではありません。もちろん結果も大事なのですが、それ以上に「日体大が頑張っている」姿がテレビやラジオで伝わってくるのがすごくうれしかった。ゴールテープを切るあの瞬間こそ、「日体大としての誇り」を全国の日体大関係者は感じたのではないのでしょうか。陸上競技部からパワーをもらい、これに続く日体生に期待しています。新しい年が素晴らしい一年になりますよう心よりお祈り申し上げます。